

2023年度IT認定資格に関する調査レポート

世界中の人々や組織のIT認定資格に対する動機やその効果を2年ごとに調査しています。

* 本レポートは『2023 Value of IT Certification | Candidate Report』の日本語訳です。

目次

はじめに	2
要約	3
主要な調査結果	4
調査結果	
認定資格を追求する理由	9
受験者が得たメリット	13
雇用主が得たメリット	19
認定資格のトレンド	24
試験に向けた準備	36
今後のプラン	38
結論	41
付録	43



圧倒的な変化に直面する中で、 成長への揺るぎないコミットメントは持続

世界がCOVID-19のパンデミックによる暗澹たる日々から前進するにつれ、その状況は大きく変化しています。

企業は働き方を転換し、多くの人にとってハイブリッド/リモートワークがニューノーマルとなりました。2025年までに9,700万人の新規雇用が創出されると予想され、それに伴い従業員の再教育も大規模に行われるため、テクノロジーのスキル需要は増え続けています。⁽¹⁾

同時に、世界の人材不足は16年ぶりの高水準にあり、雇用主の75%がスキルギャップに直面しています。⁽²⁾ パンデミックによって加速した3つのトレンドーハイブリッドワーク/リモートワーク、eコマース、作業プロセスの自動化ーは、パンデミック後も程度の差こそあれ持続すると予想されます。⁽³⁾

しかし、未来は明るいでしょう。今年の「IT資格の価値」に関する調査データによると、ITコミュニティはこの課題に正面から取り組む準備ができており、コースワーク(研修や講習などのトレーニング)と認定資格の取得がそのための主要な手段であることが示されています。

ここでは、資格取得を目指す人たち、その動機、そして努力によってもたらされたメリットについて詳しく見ていきます。



テクノロジー導入のペースは続き、さらにクラウドコンピューティング、ビッグデータ、eコマース、サイバーセキュリティ、そしてAIなどの分野ではペースが加速し、ITリソースへの需要が高まると考えられます。⁽¹⁾

(1) The World Economic Forum: 『Future of Jobs Report』 2020年10月

(2) ManpowerGroup 『2022 Global Talent Shortage』

(3) McKinsey Global Institute (MGI) 『The Future of Work After COVID-19』 2021年2月

概要

シリーズ第8回となる2023年のIT受験者調査レポート
(2023 Value of IT Certification Candidate Report)では、
変化する厳しい労働環境の中で、ピアソンVUEを利用して
IT認定資格の試験準備や取得をした176カ国、21,000人
以上のプロフェッショナルたちの視点と経験を取り上げま
す。

このレポートでは、人々がなぜ認定資格を求めるのか、どの
ようなメリットがあるのか、そして認定資格取得が雇用主の
業績にどのような影響を与えるかについての見解を示してい
ます。また、今回のレポートでは、受験者に焦点を当てた前回
のレポート以降、認定資格取得の原動力がどのように変化し
たか、そして来年に何が予想されるかを明らかにしています。
調査回答者は、アジア太平洋、英国・ヨーロッパ、中東・アフリ
カ、中南米、北米の各地域に及んでいます。回答者の視点と
個々の経験には説得力があると納得できるでしょう。

変化する厳しい労働環境の中で
IT認定資格の試験準備や取得をした

21,000

人以上の
プロフェッショナルたちの
視点と経験を紹介

1. 受験者はより良い雇用機会を得るために認定資格に投資 — そしてその多くが努力に対する成果を得ている

認定資格取得により、新たなスキルの習得が可能となり、より良い仕事、より実りのある仕事に就くことができるようになります。

- 37%の人が認定資格取得後に給料が上がり、さらに36%は昇給を見込んでいる。
- 27%の人は昇進した。

35%の回答者は
20%以上昇給した



2. 認定資格を保有する従業員は、より力を発揮し、より多くの利益をもたらす

認定資格は、従業員の流動性、さらには企業の収益性を向上させます。

- 認定資格取得は、受験者の現在の労働条件を向上させるだけでなく、新たな雇用機会の可能性を探る能力も高めます。
- 認定資格を保有する従業員は、より質の高い仕事をし、生産性も高いので、業績に好影響を与えます。

92%

の受験者は

自身の能力に自信を深め、**81%**の人が新たな雇用機会を探ることに自信を持つようになった



3. 若年層が認定資格を目指し、学習サイクルの早い段階で取得することで、スキルギャップはより早く縮まる

若い世代は、成熟した世代よりも高い割合で認定資格の取得を目指す意志があります。

- Z世代やミレニアル世代は、通常キャリアをスタートしてから取得する旧世代に比べ、学生時代にIT認定資格の取得を検討する傾向があります。
- 初めて認定資格を目指す人の年齢は下がってきています。初回受験者の割合は34歳以下が増加し、55歳以上が減少しました。

42% のZ世代と

15% のミレニアル世代は
ベビーブーム世代が7%であるのに対し、
学生の頃から認定資格について検討



4. 破壊的で一時的と見なされていたパンデミックに起因したテクノロジーの需要は、今や当たり前前に求められるものとなった

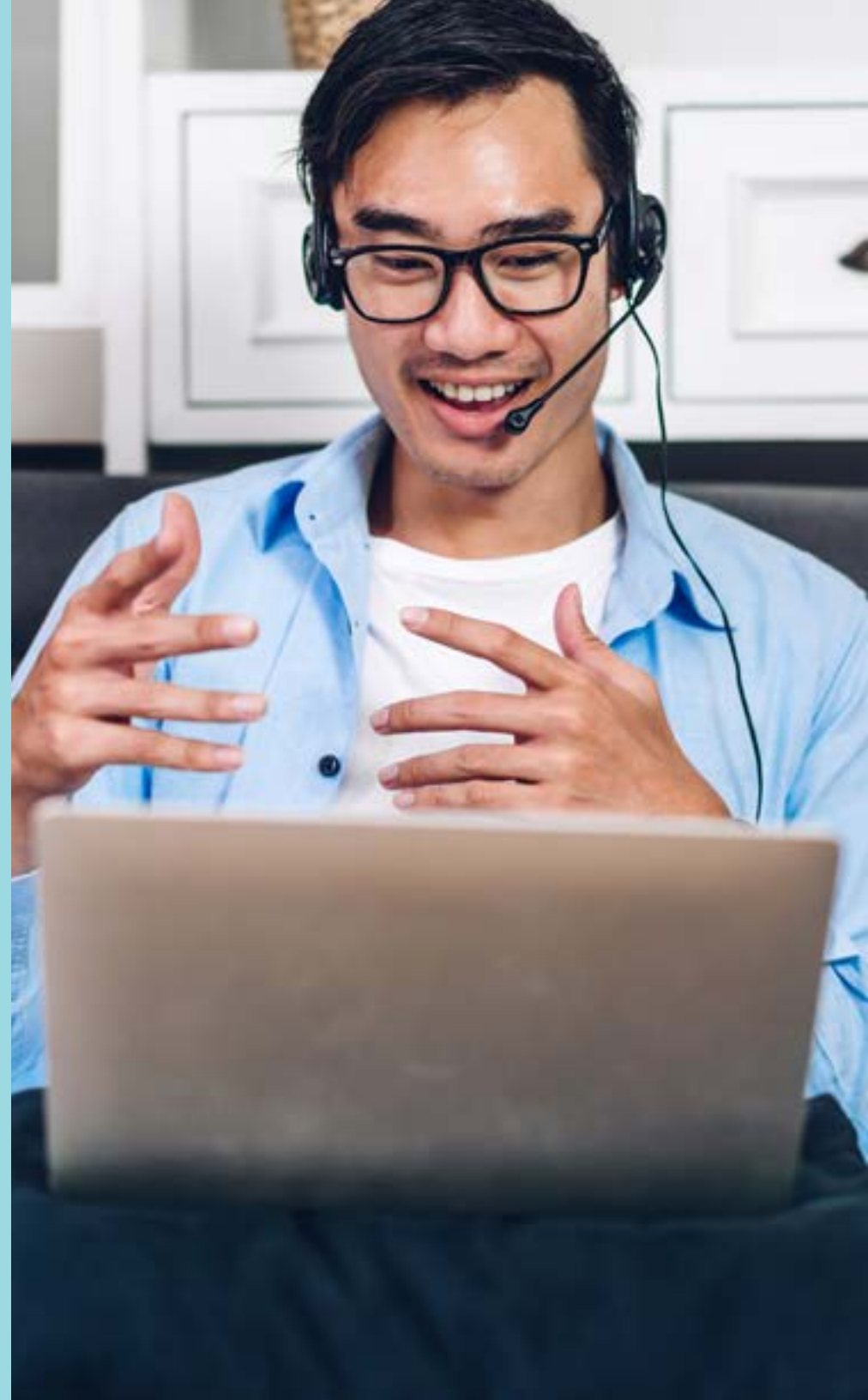
COVID-19は、テクノロジーのスキルが基本要件となる「未来」のワークプレイスの到来を加速させました。

- IT認定資格はこれまで、従業員のスキルアップを図ることで、スキルギャップに迅速に対応できる「Future Proof(将来を見据えた)」労働力を生み出すソリューションと見なされてきた。
- COVID-19により、従来は「将来を見据えた」ビジネスに必要なだったスキルが、今や重要な成功要因となった。

65%の受験者と

55%の雇用主は

ITスキルの習得への投資を拡大



5. 利便性が(おそらくCOVID-19も)、試験準備の方法に影響をもたらした

- 受験者はトレーニングコースに申し込むよりも、自己学習型の試験準備方法を好むようになった。
- 受験者は試験準備や受験にオンラインを活用するようになった。

試験準備のコースに申し込んだ回答者のうち

86%
が

それらのコースをオンラインで受講



IT認定資格を追求す理由は？

リスキリング/
スキルアップの必要性 **75%**

認定資格の取得を計画した理由として、前回と同様に「スキル、知識または能力を身につけ、雇用機会を増やしたい」という回答が最も多くなりました。興味深いことに、資格取得の動機の上位3つは2020年のデータと同じでしたが、それを挙げる受験者の比率は今回は顕著に高くなっていました。「スキルの習得」は47%で理由のトップであり(表1)、これを理由の1つとして挙げた受験者は75%(表2)でした。

“認定資格の取得や再認定を受けることは、顧客に対して改善やイノベーションへの継続的なコミットメントを示すことになり、私自身と雇用主の双方にとって有益でした。”

— シスコ技術者認定ホルダー(バングラデシュ)



IT認定資格を追求す理由は?(続き)

次に多かった理由は、プロフェッショナルとしてのプロフィールを強化することと昇格や昇進することでした。62%の受験者はプロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書の充実のため、59%は昇格や昇進のために資格取得を目指しました(表2)。

転職が認定資格を取得する最も重要な理由と答えた人はグローバルで7%となり、2020年の調査から少し下回りましたが、北米では転職を希望する人の割合が2倍(15.7%)に増加しました(付録1)。

プロフェッショナル
としてのプロフィール
強化のため **62%**

昇格や昇進のため **59%**

転職するため **25%**

表 1: 認定資格取得を計画した最も重要な理由

	2020年	2022年
スキル、知識または能力の取得	44.3%	↑ 47.3%
プロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書の充実	14.4%	↑ 15.4%
現職での昇格や昇進	21.9%	21.6%
特定の IT 職の取得	6.5%	5.2%
転職	7.6%	7.0%
就職 (失業している/していた)	4.9%	3.2%

表 2: 認定資格取得を計画した理由 (複数回答)

	2020年	2022年
スキル、知識または能力の取得	72.5%	↑ 74.8%
プロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書の充実	56.8%	↑ 61.5%
現職での昇格や昇進	56.2%	↑ 58.8%
特定の IT 職の取得	32.4%	↓ 27.3%
転職	26.2%	↓ 24.8%
満たす必要のある仕事や学校の要件	19.7%	20.4%
就職 (失業している/していた)	13.4%	↓ 10.0%

*矢印は、2021年のからの目立った増減を示しています。

継続中のパンデミックの影響

4人に3人が、COVID-19のパンデミックにより職場で変化があったと回答しています。多くの場合、この変化はポジティブなものではなく、何かしらのリスキリングやスキルアップが求められました。

- a) 仕事量が増えた — 48%
- b) 同じ職務で新しい職責を担った — 46%
- c) 他社または異業種へ転職した — 24%
- d) 失業した、または降格された — 12%

こうした変化に対応するため、65%の受験者がITスキル習得への投資を増やしました。

- a) ITスキルのトレーニングへの投資が増えた — 59%
- b) IT認定資格への投資が増えた — 60%

COVID-19のパンデミックの影響により以下のことを経験しましたか？

グローバル

失業または降格	12%
作業量の増加	48%
仕事への意欲の低下	37%
オフィス/現場勤務が週3日以上リモートワークに移行	59%
同じ職務における新たな責任、または組織における新たな役割の負担	46%
異業界での新たな役割、または転職	24%
学術研究の延期または中止	18%
雇用される可能性や新たな仕事の機会の増加	42%
ITスキルのトレーニングへの投資の増加	59%
IT認定資格への投資の増加	60%

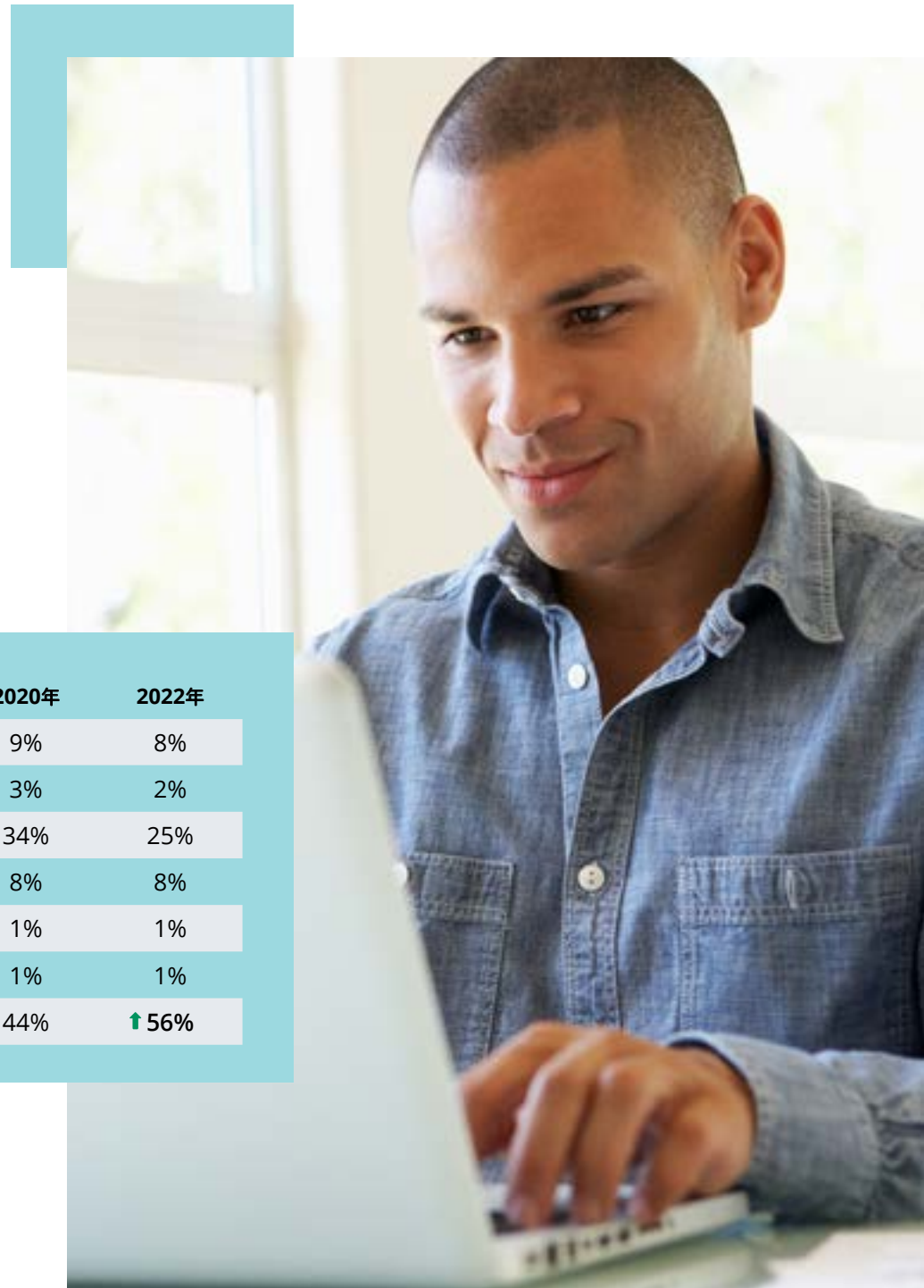


継続中のパンデミックの影響(続き)

パンデミックはまた、受験のあり方にも影響を及ぼしています。テストセンターでの試験予約が再開した一方で、オンライン監督による試験が定着したことは明らかです。

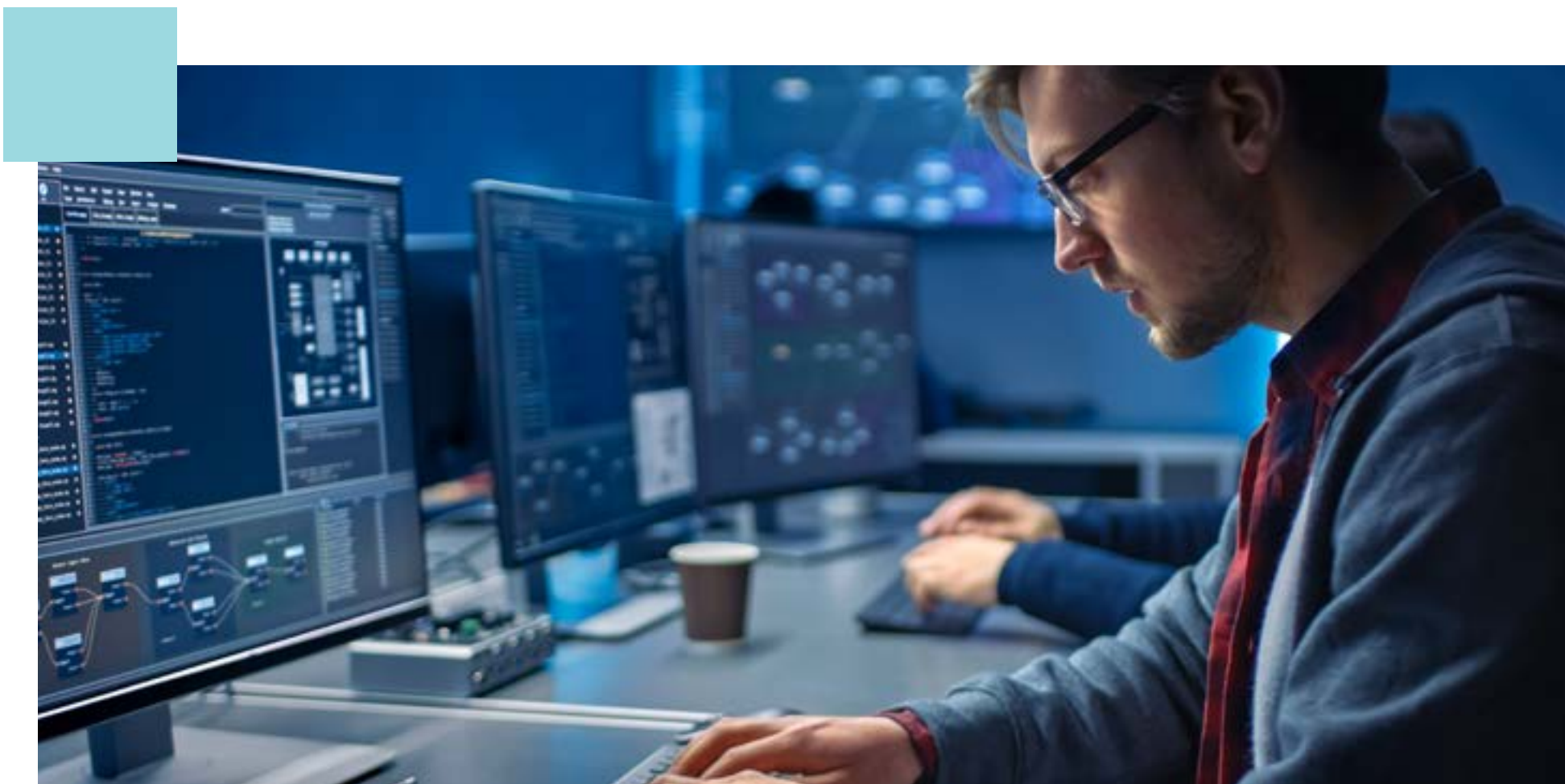
どこで認定資格試験を受けましたか？

	2020年	2022年
中学・高校/大学・短大・専門学校等	9%	8%
イベント/カンファレンス会場	3%	2%
民間のトレーニング機関	34%	25%
勤務先	8%	8%
政府やNPOによる開催場所	1%	1%
軍事施設	1%	1%
OnVUE (オンライン監督)によるリモート試験	44%	↑ 56%



受験者が得たメリット

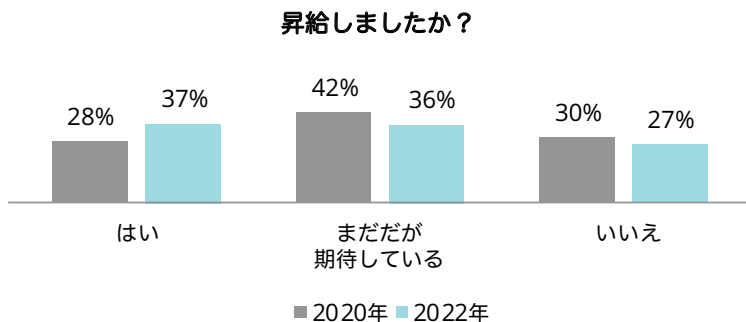
昇給や昇格から生産性の向上、および個人的な目標達成など、回答者にはさまざまな形でメリットがありました。認定資格の取得に特定の目標を設定していた人のうち**80%は目標を達成**し、そして直接的かつ本質的なメリットを享受していました(付録 2)。



認定資格の金銭的なメリット

当然のことながら、多くの回答者が認定資格取得を目指す上で、昇給は主要な目標でした。そして前回の調査結果より多くの人がそれを達成しています。

回答者の37%は、資格取得後に昇給しました。これは2020年のデータである28%を大きく上回っています。



“私は今年、認定資格を取得したことで51%以上昇給し、そして昇進することができました。”

– Microsoft 認定資格ホルダー (インド)

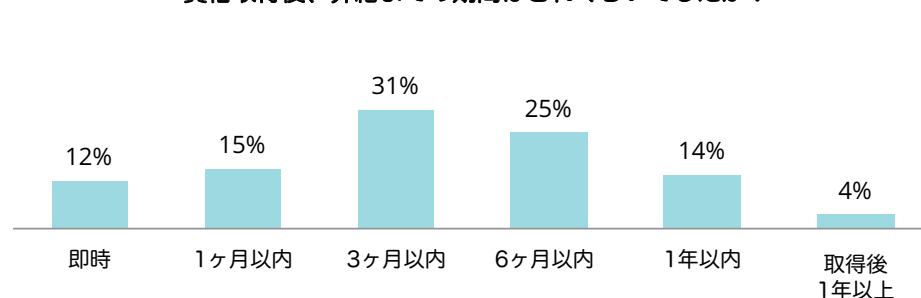


認定資格の金銭的なメリット (続き)

昇給した人のうち

58% は資格取得後3ヶ月以内のタイミングで昇給が反映され、また取得後6ヶ月以内は **83%** と大幅に増加

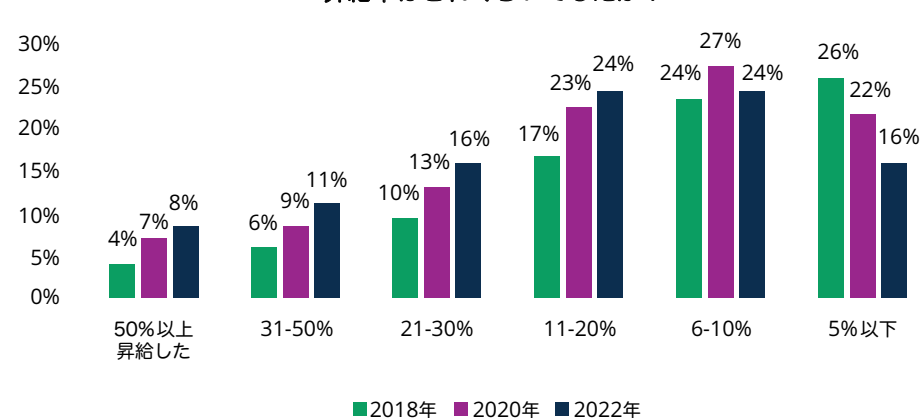
資格取得後、昇給までの期間はどれくらいでしたか？



2018年以降、昇給額は順調に増加している

2022年は **35%** の人が20%以上の昇給を得たと回答。2018年の20%、2020年の28%に対し、大幅に増加

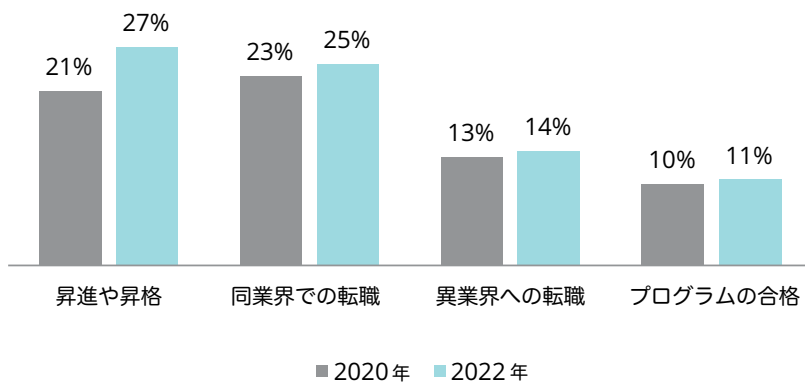
昇給率はどれくらいでしたか？



その他の外発的 (有形、測定可能) メリット

給料が上がっただけではありません。資格取得後に昇進や転職したと回答した数も増加しており、さらには、応募していたプログラムに合格した人も多くなりました。

- ・ 昇進・昇格した — 27%
- ・ 認定資格を取得したおかげで同じ業界で転職できた — 25%
- ・ 異業界へ転職した — 14%
- ・ 応募したプログラムに合格した — 11%



グローバルにおけるメリット

回答者が経験したポジティブな結果には、地域による顕著な違いが見られました。

- インドの回答者は、同業界での転職および大学またはプログラムに合格した割合が最も大きかった。
- 中南米は昇進したという回答が最も多く、アジア太平洋は異業界で新しい仕事を任される可能性が増加した。
- 日本は、調査時点でメリットを実感していると回答した割合が最も低かった。



	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
昇進や昇格	27%	30%	26%	35%	↓ 10%	↑ 37%	31%	20%
同業界での転職	25%	33%	21%	↑ 37%	↓ 5%	25%	30%	22%
異業界への転職	14%	↑ 20%	11%	20%	↓ 3%	14%	16%	15%
大学またはプログラムの合格	11%	15%	6%	↑ 19%	↓ 4%	10%	13%	8%

“スタートアップ企業で働くという素晴らしい機会を得ることができました。私にとっては夢のような仕事です。そして同時に、認定を取得していることは、自分の仕事の質を自信を持ってアピールするために重要です。”

– Meta (Facebook) 認定ホルダー (メキシコ)

内発的(個人的) メリット

前述の有形で測定可能なメリットに加え、ほとんどの回答者が、自信と決意が高まった、同僚からより信頼されるようになった、仕事の満足度と自立性の両方を向上した、といった内発的なメリットを認定資格の取得と結びつけています。

- 自身の能力に対する自信がついた — 92%
- プロフェッショナルとして成功するための決意がより強固になった — 84%
- 同僚たちからの信頼度が高まった — 79%
- 現在の業務における満足度が上がった — 78%
- 業務を実行する際の自立性が向上し、他者に対する依存度が低下した — 74%

“試験に合格後したことは、私に
変革をもたらし、本当に自信が
つきました!”

– Tableau 認定資格ホルダー (オーストラリア)

以下のいずれかのメリットはありましたか？

	グローバル	アジア 太平洋	英国・ ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
自身の能力に対する自信がついた	92%	92%	89%	↑97%	↓87%	95%	96%	89%
プロフェッショナルとして成功するための決意が より強固になった	84%	87%	78%	↑94%	↓71%	90%	94%	80%
転職活動への関心と自信が高まった	81%	86%	74%	↑93%	↓53%	88%	91%	80%
同僚たちからの信頼度が高まった	79%	80%	72%	↑90%	↓69%	84%	88%	72%
現在の業務における満足度が上がった	78%	82%	73%	87%	71%	↑88%	83%	↓66%
業務を実行する際の自立性が向上し、 他者に対する依存度が低下した	74%	78%	66%	↑87%	↓63%	80%	85%	62%

雇用主が得たメリット

これまでの調査でも明らかなように、IT 認定資格のメリットは取得者だけでなく、その雇用主にもプラスの影響を与えています。そのため、雇用主は既存のチームのスキルアップに取り組んでいます。実際、グローバルナレッジの「2021年ITスキルと給与に関するレポート」によると、IT部門の意思決定者の56%が、既存スタッフのトレーニングによってスキルギャップに対応することを計画しています。⁽⁴⁾ 回答者から、このような状況について貴重な情報を得ることができました。



雇用主の直接的な視点については、当社の「2021 Value of IT Certification Employer Report」で提供される洞察をご覧ください。



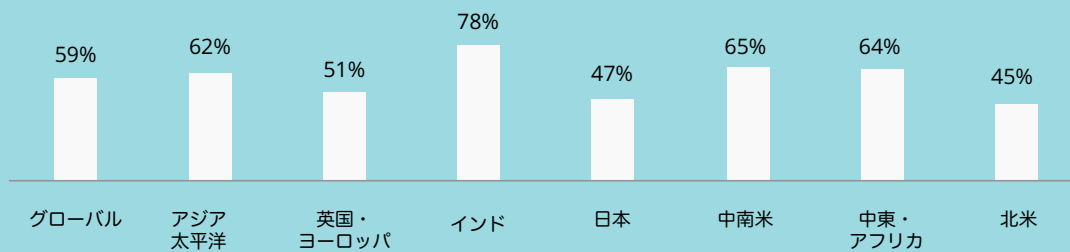
(4) 「2021 IT Skills and Salary Report (2021年ITスキルと給与に関するレポート)」 Global Knowledge 著

雇用主が得たメリット (続き)

雇用主は、既存の従業員のトレーニングとサポートを充実させることで、ITスキルギャップに対応することができます。すでに多くの企業 — 59%の回答者は、調査対象の12ヶ月間に雇用主がITトレーニングへの投資を増やしたと回答しています。

59%は、彼らの雇用主がITスキルのトレーニングへの投資を増加させたと回答しています。インドにおいて最も投資が多く、78%が雇用先企業が投資を増やしたと回答しています。

従業員のITスキルへの投資を増額した雇用主



雇用主が得たメリット (続き)

53% の雇用主が試験準備のためのトレーニング費用を負担 (付録3)

55% の回答者の雇用主は、さらに試験料も負担し、2020年の調査の47%から大きく増加

誰が認定資格の費用を負担しましたか？

	2020年	2022年
受験者本人	35%	26%
勤務先組織	47%	55%
中学・高校/大学・短大・専門学校等	3%	3%
政府のプログラム	2%	2%
ほかの第三者機関 (NPO団体等)	3%	3%
わからない	1%	1%
無料だった	8%	8%
回答しない	3%	3%

IT資格取得への投資は、企業の業績に影響を与える。

従業員1人あたりの認定資格取得への投資リターン(ROI)は

\$30,000

と見積もられている

64%のIT部門の意思決定者は、認定資格を持つ従業員は持っていない従業員に比べ

\$10,000

以上の付加価値を生み出すと見積もっている⁽⁴⁾

⁽⁴⁾『2021 IT Skills and Salary Report (2021年 ITスキルと給与に関するレポート)』Global Knowledge 著

雇用主が得たメリット (続き)

認定資格は、従業員の業務における価値を向上させます。

81% 業務の質がより高くなった

72% 効率が上がった

72% 生産性が上がった

77% 資格取得により、より良い革新を起こすことができたようになった

そのほかのメリットとして、同僚を指導・サポート

する能力の向上 **(82%)** や、

自立性の向上および他者に対する依存度の低下

(74%) が含まれます。

受験者が実感した業務におけるメリット

業務における質と価値が向上した	81%
業務を実行する際の自立性が向上し、他者に対する依存度が低下した	74%
業務における効率が上がった	72%
生産性が上がった (全体としてより生産性が上がった)	72%
同僚を指導し、サポートする能力が向上した	82%
今までできなかった業務や役割をこなせるようになった	74%
仕事のプロセスと成果を、革新や強化する能力が高まった	77%

雇用主が得たメリット (続き)

認定資格は、転職を検討するときに自信を高めることができます。

回答者の81%は、資格を取得したことで、新しい仕事を探す自信が高まったと述べています(付録 6)。

これを脅威と感じる雇用主がいる一方で、多くの雇用主は認定資格が職場にもたらす価値を理解しています。⁽⁵⁾

IT部門の従業員のトレーニングや認定資格に投資している雇用主は、従業員を維持する可能性が高くなっています。雇用主がトレーニングや資格取得の費用を負担した場合、受験者は新しい仕事を探したいと感じる可能性が低くなっています。

負担別、新しい仕事の機会を探ることへの関心 (自己または雇用主の負担)

雇用主負担の トレーニング	自己負担の トレーニング	雇用主負担の 認定資格試験	自己負担の 認定資格試験
75%	83%	77%	88%

“私は資格を持ち、価値を明確に示すことができるとわかっていたので、面接に臨み、キャリアアップを目指すことができました。”

– (ISC)² 認定ホルダー (アメリカ合衆国)



認定資格のトレンド：専門分野

最も人気の高い5つの専門分野は、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティ、ネットワーク&ワイヤレス、セキュリティ、そして仮想化でした。

クラウドコンピューティングは最も求められている専門分野で、すべての試験の専門分野の16%を占めています。インドでは、クラウドコンピューティングの認定資格は27%でした。

サイバーセキュリティ、およびネットワーク&ワイヤレスの認定資格は、全体の13%弱で、グローバルで2番目に人気の専門分野でした。しかしながら北米では、サイバーセキュリティが一番割合が大きく、25%を占めていました。

認定資格の専門分野は？	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	16.1%	15.0%	13.5%	27.3%	21.5%	12.8%	12.0%	10.3%
サイバーセキュリティ	12.8%	14.5%	9.9%	5.2%	11.4%	11.9%	12.6%	25.4%
ネットワーク&ワイヤレス	12.8%	15.5%	11.4%	9.6%	9.3%	13.0%	21.1%	11.2%
セキュリティ	9.8%	9.4%	9.9%	6.2%	7.1%	8.9%	13.0%	14.9%
その他	8.0%	6.6%	6.4%	10.1%	6.6%	10.9%	6.9%	8.7%
仮想化	5.5%	6.8%	7.3%	4.4%	6.5%	5.0%	4.8%	2.9%
アプリケーション (ソフトウェア) 開発	4.1%	3.1%	4.9%	7.9%	5.4%	3.5%	2.2%	1.4%
CRM & ERP	3.9%	3.1%	7.3%	6.3%	1.4%	3.1%	3.5%	1.6%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	3.4%	3.3%	3.8%	4.5%	2.8%	3.8%	1.9%	3.6%
サーバ	2.8%	3.0%	2.6%	0.6%	6.1%	2.9%	2.4%	1.8%
ストレージ	2.5%	3.1%	2.1%	2.3%	2.6%	2.8%	3.3%	1.3%
エンタープライズ・アーキテクチャ	2.2%	1.9%	3.4%	1.8%	0.5%	4.1%	2.4%	1.1%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生産性ソフトウェア	2.1%	1.8%	3.1%	1.5%	4.2%	1.3%	1.7%	0.9%
ヘルプデスク	1.6%	0.8%	1.6%	0.1%	0.6%	1.1%	2.0%	5.7%

認定資格のトレンド：専門分野 (続き)

認定資格の専門分野は？	グローバル	アジア 太平洋	英国・ ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
オペレーティングシステム	1.4%	1.1%	2.1%	0.1%	1.6%	1.2%	2.0%	1.6%
ビジネススキル	1.3%	1.7%	1.5%	0.9%	1.4%	1.9%	0.9%	1.0%
DevOps	1.3%	1.2%	1.6%	2.4%	0.5%	1.5%	0.8%	0.8%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	1.1%	1.3%	1.1%	1.7%	1.0%	1.2%	1.0%	0.5%
コラボレーション、ビデオ / ウェブ カンファレンシング	1.0%	0.6%	1.3%	0.5%	0.4%	2.1%	1.0%	0.8%
データベース管理・開発	0.9%	0.9%	1.0%	0.7%	1.7%	0.6%	0.4%	0.6%
eコマース / eビジネス	0.8%	1.2%	1.2%	0.5%	0.1%	2.3%	0.3%	0.3%
IoT/クラウド コンバージェンス	0.8%	0.9%	0.4%	1.4%	0.7%	0.9%	0.9%	0.3%
プロジェクトマネジメント、アジャイル および/またはスクラム	0.7%	0.5%	0.3%	0.7%	1.4%	0.3%	0.3%	1.2%
ウェブ開発	0.6%	0.4%	0.6%	1.1%	0.8%	0.4%	0.5%	0.2%
リーダーシップ、マネジメント	0.5%	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%	0.5%	0.7%	0.7%
ボイスエンジニアリング	0.5%	0.4%	0.5%	0.3%	0.4%	0.8%	0.7%	0.5%
ミドルウェア	0.4%	0.1%	0.1%	0.6%	1.4%	0.1%	0.3%	0.0%
モバイル	0.3%	0.4%	0.4%	0.5%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%
ゲーム開発	0.2%	0.5%	0.1%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
オープンソース	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%
品質管理	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.7%	0.1%	0.1%	0.1%
3D モデリング/CAD	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%
XR (VR、AR、MR)	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%

認定資格のトレンド： 認定資格の検討を始めた時期 (Z世代効果)

今年のレポートで明らかになった最も興味深いトレンドは、学習者が資格取得を検討し始める時期です。

IT認定資格は教育市場に浸透しており、学生はより早い時期からにスキル習得の準備を始めています。

グローバルでは73%が、キャリアをスタートした後に初めて資格取得を検討したと回答、17%は学生時代、そして11%は求職中に初めて資格取得を検討したと回答しました。

学生の時に認定資格取得を検討した割合は、北米では24%、中東・アフリカでは27%でした。



	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
学生の時	17%	18%	15%	13%	12%	12%	27%	24%
就職・転職活動中	11%	12%	11%	6%	3%	13%	18%	13%
キャリア開始後	73%	70%	74%	81%	85%	75%	56%	63%

認定資格のトレンド： 認定資格の検討を始めた時期（続き）

学生の時に初めて認定資格を考えた人のうち、5%は高校、4%は短大・専門学校に在学中、7%は大学在学中と回答しています。

キャリアをスタートさせて2年以内に認定資格取得を検討した人は30%でした。

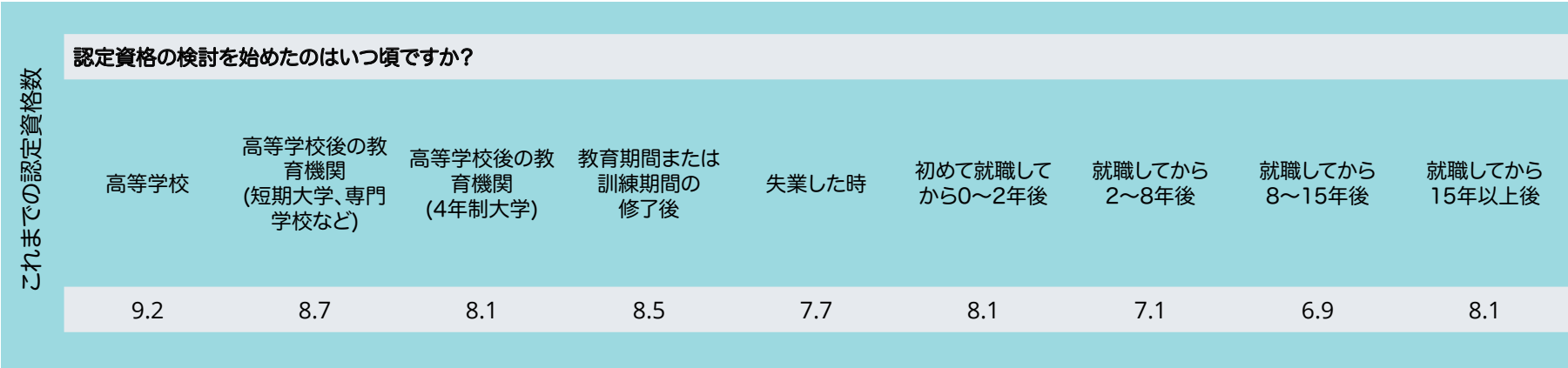
初めて認定資格の検討を始めた時期

	グローバル
高等学校	5%
高等学校後の教育機関(短期大学、専門学校など)	4%
高等学校後の教育機関(4年制大学)	7%
教育期間または訓練期間の修了後	9%
失業した時	2%
初めて就職してから0～2年後	30%
就職してから2～8年後	24%
就職してから8～15年後	10%
就職してから15年以上後	10%

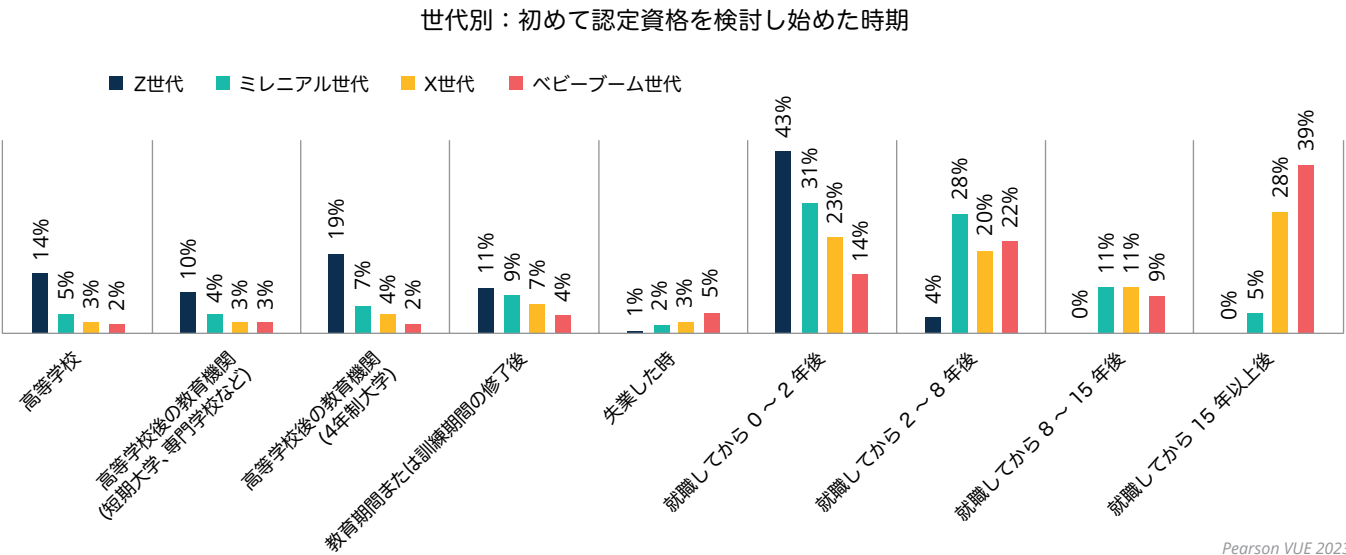


認定資格のトレンド：認定資格の検討を始めた時期 (続き)

より早い時期に認定資格の検討を始めるほど、より多くの認定資格を取得しています。
高校時代に初めて認定資格を目指した受験者は、保有する数が平均9.2個と、最も高い割合でした。



若い世代は、上の世代に比べ、学生の時に資格を取得する割合が高い傾向にあります。
Z世代は14%が高校で資格取得を検討したのに対し、ベビーブーム世代はわずか2%でした。



認定資格のトレンド： 認定資格の検討を始めた時期 (続き)

他のどの世代よりも、Z世代は最も高い割合で仕事を探しており、IT関連の職務に就くことを希望しています。ミレニアル世代は、昇進と転職を希望している割合が最も高く、X世代は、仕事を探している可能性は最も低いが、転職を希望しています。ベビーブーム世代は、昇進を希望する割合が最も低く、要件を満たすために認定資格を取得する割合が最も高くなっています。

注：Z世代は年齢が若いため、在職期間8～15年および15年以上のデータには含まれていません。



この資格取得を目指した最も重要な理由は何ですか？

	Z世代	ミレニアル世代	X世代	ベビーブーム世代
昇進や昇格	54%	↑64%	47%	↓34%
転職	18%	↑27%	21%	15%
就職	↑19%	9%	6%	9%
特定のIT職	↑30%	28%	23%	↓19%
技能や知識、能力	76%	75%	75%	71%
プロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書の充実	63%	63%	56%	57%
プログラムや大学入学のための出願	10%	5%	3%	3%
仕事や学校の要件	21%	18%	↑26%	↑33%

認定資格のトレンド：

認定資格を初めての取得した受験者と複数保有している受験者の比較

認定資格を初めての取得した人は、女性、18～34歳、パートタイムまたはフルタイムの学生、新入社員レベルで多く見られました。



認定資格のトレンド：認定資格を初めての取得した受験者

グローバルでは32%が、インドにおいてはほぼ半数が、初めて認定資格を目指した人でした。

今回が初めての認定資格ですか？

	グローバル	アジア 太平洋	英国・ ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
はい	32%	32%	26%	46%	21%	34%	33%	35%
いいえ	68%	68%	74%	54%	79%	66%	67%	65%

初めて認定資格を取得した27%は女性で、複数保有している14%をはるかに上回ります。男女比における女性の比率は、2020年の調査から22%上昇しました。女性受験者の割合は、2020年は15%だったのに対し、今回は18%に増加しました。

性別

	初めての受験者	複数保有している 受験者
男性	70%	↑ 83%
女性	↑ 27%	14%
回答しない	3%	3%

自認する性別

	2020	2022
男性	83%	79%
女性	15%	18%
回答しない	3%	3%

See Appendix for responses to all gender options.

認定資格のトレンド： 認定資格を初めての取得した受験者(続き)

女性が昇進や昇格、就職のために認定資格を取得することは、男性よりも少ない傾向にあります。中東・アフリカにおいては、女性の11%が就職のために資格を取得しています(付録5)。

男性は、女性よりもIT関連の仕事に就きたいと考えている人が多い傾向にあります。IT関連の職種を希望する男性の割合は、アジア太平洋地域で8%、中東・アフリカで7%となっています。

この資格取得を目指した最も重要な理由は何ですか？

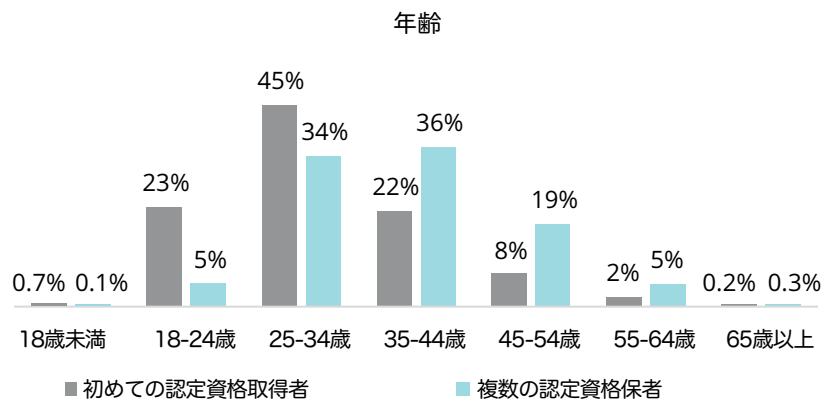
	男性	女性
昇進や昇格	22%	20%
転職	7%	7%
就職	3%	4%
特定の IT 職	5%	4%
技能や知識、能力の習得	47%	48%
履歴書の充実	15%	16%
プログラムや大学への出願	0%	0%



認定資格のトレンド:

認定資格を初めての取得した受験者(続き)

認定資格を初めての取得した人は、複数保有者と比べ34歳以下である傾向があります。



認定資格のトレンド：

認定資格を初めての取得した受験者(続き)

初めての認定資格取得者の25%はパートタイムもしくはフルタイムの学生でした。

今回、IT認定資格を取得したときは学生でしたか？

	初めての 受験者	複数保有 している 受験者
いいえ	75%	90%
全日制(フルタイム)の学生/学生だった	16%	5%
定時制(パートタイム)の学生/学生だった	9%	6%

初めての認定資格取得者の26%は新入社員レベルのポジションで採用されました。

キャリアレベルは？

	初めての 受験者	複数保有 している 受験者
無職または学生	8%	2%
新入社員レベル (平均 2 年以下)	26%	6%
一般社員レベル (平均 2~8 年)	34%	26%
中堅社員レベル (平均 8~15 年)	17%	31%
管理者レベル (平均 15 年以上)	11%	33%
該当しない	3%	1%
回答しない	3%	2%



認定資格のトレンド： 認定資格を初めての取得した受験者(続き)

認定資格を初めての取得した人は、複数の認定資格保有者と比べ、転職や就職を理由に挙げる人が多くいました。

認定資格取得を計画した理由：

	初めての 受験者	複数保有 している 受験者
現職での昇格や昇進のため	21%	22%
転職のため	10%	6%
就職のため (失業している/していた)	6%	2%
特定のIT職の取得のため	5%	5%
スキル、知識または能力の取得のため	42%	49%
プロフェッショナルとしてのプロフィールや履歴書を充実させるため	14%	16%
プログラムや大学入学のための出願の補完のため	1%	0%



試験に向けた準備

試験準備に関しては、調査データにより明らかな傾向が見て取れます。受験者は、試験準備において期間や場所の両方にて主体性を持つようになっていきます。

受験者は、トレーニングコースを受講するよりも、自分で試験準備する方法を選んでいきます。

全体として、民間のトレーニングコースへの参加は、28%から14%へと大幅に減少しました。地域別のデータでは、日本と北米で雇用主主催のトレーニングコースへの参加者が減少していることがわかります(付録6)。

試験の準備のために何を利用しましたか？

	2020年	2022年
民間のトレーニングセンターのコース	28%	14%
雇用主が主催するトレーニングコース	25%	25%
大学等のコース/キャリア開発コース	15%	16%
自主学習教材(無料)	53%	54%
自主学習教材(購入)	32%	28%
テキストやサブスクリプション	16%	28%
模擬試験	37%	46%
実技用ラボ	25%	29%



試験に向けた準備(続き)

また、受験者は試験準備さらには受験をオンラインに依存する傾向にありました。

受験者は、対面式のトレーニングコースよりも、リアルタイムまたは自分のペースで進められるオンラインを好んでいました。コースを受講した86%がオンラインを選択し、この傾向は、中南米(92%)と日本(90%)で最も高くなっています。

コースの受講形式

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
実地での対面式	14%	18%	13%	12%	11%	8%	26%	12%
オンライン形式	86%	82%	87%	88%	90%	92%	74%	88%

コース教材へ統合が減少しているにもかかわらず、模擬試験や実技用ラボの利用が増加しました。これは、自主的な学習者によるこれらの教材の利用が増えたことを示しています。

コース教材への模擬試験の導入率は47%から36%に低下しましたが、利用率は37%から46%に上昇していました。

トレーニングコースではどのような教材や学習活動が利用されましたか？

	2020年	2022年
機関の講師等によって作成されたテキスト	42%	34%
紙のテキストや参考書	21%	20%
デジタル版のテキストや参考書 (例: 電子ブック)	34%	39%
インタラクティブ・メディア (オンラインまたはソフトウェア)	37%	28%
ビデオ教材	43%	36%
模擬試験	47%	36%
シミュレーション環境/実技用ラボ	38%	24%
実践ベースの教育/共同教育	15%	11%

“試験の準備をしたことで、主題について全体的に理解することができ、業務を遂行する上でとても役立ちました。”

– Microsoft 認定資格ホルダー (スリランカ)

今後のプラン

IT認定資格は、取得を目指す人々にとって引き続き重要なものであることが証明されています。アンケート回答者の多くは、今後さらに資格を取得する予定であり、また、IT分野の他の人に資格取得を勧めています。

回答者の多くが、今後12ヶ月以内に再度認定資格試験を受ける可能性が高いと回答しました。

89% は認定資格を人に勧める可能性が高い

84% は今後12ヶ月以内に再び認定資格試験を受ける可能性が高い



認定資格を推奨する可能性

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
非常に高い	65%	61%	63%	77%	32%	77%	80%	66%
高い	24%	28%	26%	18%	44%	17%	15%	20%
どちらとも言えない	9%	9%	8%	4%	22%	4%	4%	9%
低い	2%	1%	3%	1%	2%	1%	1%	3%
全くない	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	3%

今後のプラン(続き)

再び認定資格試験を受ける可能性

	グローバル	アジア 太平洋	英国・ ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
非常に高い	64%	57%	62%	71%	45%	77%	76%	60%
高い	21%	25%	21%	21%	32%	16%	15%	16%
どちらとも言えない	11%	13%	12%	6%	18%	6%	7%	13%
低い	4%	5%	5%	2%	3%	1%	2%	7%
全くない	1%	1%	1%	1%	2%	0.4%	1%	4%

再度、認定資格試験を予定している回答者は、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティ、およびセキュリティの各認定資格に最も高い関心がありました。地域別では、クラウドコンピューティングへの関心は、インドで48%、日本で44%と大きくなっています(付録7)。仮想化、ネットワークおよびワイヤレスの認定資格は、合わせて21%の受験者が関心を持っています。

クラウドコンピューティングとサイバーセキュリティの認定資格は、今後12ヶ月は引き続き高い需要が見込まれる一方、ネットワーク&ワイヤレスはセキュリティと仮想化の専門分野に抜かれる可能性があります。

“AZ-900を取得したことで、さらに多くの資格取得を目指すようになり、より良い仕事仕を探すモチベーションとなりました。この小さな自信の後押しが、まさに今の私の人生に必要なものだったのです。”

– Microsoft 認定資格ホルダー (南アフリカ)

今後のプラン (続き)

今回と今後注目する専門分野

	2022年	今後12ヶ月以内に目指す
クラウドコンピューティング (IaaS, PaaS, SaaS)	16.1%	38%
サイバーセキュリティ	12.8%	34%
セキュリティ	9.8%	26%
仮想化	5.5%	21%
ネットワーク&ワイヤレス	12.8%	21%
サーバ	2.8%	16%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	1.1%	16%
DevOps	1.3%	15%
アナリティクス、ビッグデータ およびデータウェアハウス	3.4%	14%
ストレージ	2.5%	12%
アプリケーション (ソフトウェア) 開発	4.1%	12%
IoT/クラウド コンバージェンス	0.8%	10%
ビジネススキル	1.3%	10%
オペレーティングシステム	1.4%	10%
プロジェクトマネジメント、アジャイル および/またはスクラム	0.7%	9%
ウェブ開発	0.6%	8%
データベース管理・開発	0.9%	8%

	2022年	今後12ヶ月以内に目指す
リーダーシップ、マネジメント	0.5%	7%
CRM & ERP	3.9%	7%
エンタープライズ・アーキテクチャ	2.2%	7%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生 産性ソフトウェア	2.1%	6%
オープンソース	0.2%	4%
eコマース / eビジネス	0.8%	4%
ヘルプデスク	1.6%	3%
モバイル	0.3%	3%
コラボレーション、ビデオ / ウェブ カンファレン シング	1.0%	3%
ゲーム開発	0.2%	3%
ボイスエンジニアリング	0.5%	3%
品質管理	0.2%	2%
3D モデリング/CAD	0.1%	2%
XR (VR, AR, MR)	0.1%	2%
ミドルウェア	0.4%	2%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザ イン	0.1%	2%

結論

当社の2021年度 IT 認定資格に関する調査レポートでは、COVID-19のパンデミックから生まれた新しいトレンド、すなわちリモートワークやリモート学習、認定資格取得によるスキルアップの需要は、やがてより恒常化すると推測しました。

それから2年近く経った今、深刻な人材不足や多くの企業や団体が引き続き行っているリモートあるいはハイブリッドによる働き方、そして、雇用主がこれまで以上に、重要なスキルギャップを埋めるために認定資格を保有する従業員を求める、といった仮説が的中したと確信しています。

今回のレポートでは、資格取得を目指す労働者と雇用主の双方においてIT資格認定の価値が認識および評価されていることが、これまで以上に証明される形となりました。

認定資格の受験者は、知識やスキルの構築に自己投資を行い、キャリアの早い段階で資格の取得を目指すとともに、収入を増やしたり、やりがいのある仕事を見つけたり、自らの能力に対する自信を深めるといったメリットを享受しています。

同様に、雇用主側でも従業員のスキルアップの取り組みを支援しており、結果として、業務の質が上がって従業員の定着率も改善するという効果が生まれています。

このような流れは一時的なトレンドではなく新しい現実であり、IT認定資格が今後も業界を問わず世界規模で価値を示し続けていくことを、引き続き確信しています。



このような流れは一時的なトレンドではなく新しい現実であり、
IT認定資格が今後も業界を問わず世界規模で価値を示し続けていくことを、
引き続き確信しています。



調査方法

「2023 Value of IT Certification Candidate Report」(2023年度IT資格認定に関する調査レポート)の作成にあたっては、2021年2月28日から2022年2月28日の期間にピアソンVUEのオンラインまたはテストセンターで試験を受けた人の中から、無作為に抽出した399,998人にオンラインアンケートを送付しました。参加を促すため、4地域でそれぞれ回答した先着75人に15米ドル相当のギフトカードを贈呈しました。176か国、21,715人の受験者からの回答が本レポートに含まれています。

実施した4地域は、アジア太平洋、ヨーロッパ・中東・アフリカ、中南米、および北米で、データをより具体的に捉えるため、アジア太平洋地域からインドと日本を分離し、また、ヨーロッパ・中東・アフリカ地域の英国・欧州を分割して、区分を細分化しました。また、既存の中国語、日本語、イギリス英語の翻訳に、韓国語とフランス語を追加しました。端数処理の関係で、一部の結果の合計が100%を若干上回っている場合があります。



回答者の属性

回答者の年齢

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
18 歳未満	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%
18-24 歳	11%	10%	7%	26%	8%	8%	10%	8%
25-34 歳	38%	40%	33%	48%	30%	38%	50%	26%
35-44 歳	31%	34%	34%	21%	32%	36%	31%	32%
45-54 歳	15%	13%	21%	4%	24%	14%	7%	21%
55-64 歳	4%	2%	6%	0%	6%	4%	1%	10%
65 歳以上	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%

回答者の性別

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
男性	78%	79%	79%	74%	80%	80%	81%	74%
女性	18%	15%	16%	23%	18%	18%	17%	20%
該当しない	0.4%	0.7%	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%
回答しない	3%	5%	4%	3%	2%	1%	3%	5%
その他	0.2%	0.2%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.5%

回答者の性別 (年別)

	グローバル		アジア・太平洋		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
性別	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年
男性	83%	79%	82%	80%	82%	74%	85%	80%	85%	81%	83%	81%	76%	75%
女性	15%	18%	15%	15%	16%	23%	13%	18%	14%	18%	16%	17%	19%	20%
回答しない	3%	3%	3%	5%	2%	3%	2%	2%	1%	1%	1%	3%	5%	5%

回答者の属性(続き)

学歴

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
大学院または専門職の学位	46%	35%	45%	79%	19%	72%	36%	32%
大学/職業専門学校の学位	31%	47%	22%	15%	57%	12%	38%	32%
短期大学または専門学校卒業	11%	10%	13%	4%	14%	10%	8%	20%
高等学校卒業	11%	7%	18%	3%	10%	6%	17%	15%
中学校卒業	1%	1%	2%	0%	0%	1%	1%	2%

キャリアレベル

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
管理者レベル (平均 15 年以上)	26%	25%	36%	12%	26%	31%	16%	32%
中堅社員レベル (平均 8-15 年)	26%	28%	23%	25%	36%	26%	25%	21%
専門職または中級レベル (平均 2-8 年)	29%	28%	26%	35%	27%	31%	34%	21%
新入社員レベル (平均 2 年以下)	12%	12%	10%	23%	7%	7%	15%	14%
無職または学生	4%	4%	2%	3%	1%	1%	8%	7%
該当しない (現在の仕事はキャリアには含まない)	2%	1%	1%	0%	2%	3%	2%	3%
回答しない	2%	3%	2%	2%	2%	1%	2%	2%

回答者の属性(続き)

勤務先組織の従業員数

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
10 人未満	8%	7%	7%	4%	3%	10%	12%	12%
10 – 49 人	10%	13%	11%	4%	5%	13%	17%	8%
50 – 99 人	8%	10%	9%	3%	5%	13%	12%	5%
100 – 199 人	8%	10%	10%	3%	7%	11%	9%	6%
200 – 499 人	10%	12%	11%	4%	10%	11%	11%	8%
500 – 999 人	8%	9%	8%	4%	10%	8%	9%	7%
1,000 – 1,999 人	8%	8%	7%	4%	13%	7%	8%	8%
2,000 – 4,999 人	8%	7%	7%	4%	15%	7%	7%	8%
5,000 – 9,999 人	6%	6%	6%	5%	9%	5%	4%	7%
10,000 人以上	27%	19%	24%	64%	24%	15%	12%	32%

参加した認定資格プログラム

今回、以下の 50 の認定資格プログラムの試験の受験者が調査に参加しました。

- Arcitura
- Avaya
- Baidu
- Broadcom Software (Symantec)
- CA Technologies
- Certitrek Group
- CertNexus
- Check Point
- Cisco
- Citrix
- CompTIA
- CrowdStrike
- Dell EMC
- DPtech
- Ericsson
- Esri
- ETEC (組込み技術者試験制度)
- F5 Networks
- Fortinet
- GIAC
- 日立 (JP1 技術者資格認定制度)
- HPE
- IBM
- Intuit
- (ISC)²
- Juniper Networks
- Kinaxis
- kintone 認定資格制度
- Lenovo
- LPI
- LPI-Japan
- Meta (Facebook)
- Microsoft
- NetApp
- OMG
- Palo Alto Networks
- Pegasystems
- Ping Identity
- Qlik
- Ruijie
- SAS
- Snowflake
- Tableau
- Tanium
- UiPath
- UMLTP UMLモデリング技能認定試験
- Unity
- Veritas
- VMware
- ZTE

IT認定資格を追求する理由

1. この認定資格を目指した1番の理由は何ですか? (単一回答)

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米	初めての受験者	複数保有している受験者	Z世代	ミレニアル世代	X世代	ベビーブーム世代
昇進や昇格	22%	23%	20%	20%	23%	25%	20%	20%	21%	22%	19%	24%	17%	11%
転職	7%	6%	6%	6%	4%	5%	8%	16%	10%	6%	4%	8%	6%	4%
就職	3%	3%	2%	2%	1%	1%	7%	7%	6%	2%	7%	3%	2%	4%
特定の IT 職の取得	5%	8%	5%	5%	4%	4%	7%	5%	5%	5%	5%	5%	6%	4%
技能や知識、能力の習得	47%	43%	51%	54%	58%	45%	43%	35%	42%	49%	49%	45%	53%	56%
履歴書の充実	15%	17%	16%	14%	10%	20%	15%	16%	14%	16%	14%	15%	16%	20%
プログラムや大学入学のための出願	0.5%	1%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%	1%

2. この目的を達成しましたか?

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米	男性	女性
はい	80%	76%	86%	85%	77%	82%	73%	77%	80%	81%
いいえ	2%	2%	2%	1%	3%	2%	2%	4%	2%	2%
まだ該当しないが、期待している	18%	22%	12%	14%	20%	16%	25%	19%	18%	17%

2. この目的を達成しましたか? (続き)

	初めての受験者	複数保有している受験者	現職での昇格や昇進を希望	転職を希望	就職 (失業している / していた) を希望	特定の IT 職の取得を希望	スキル、知識または能力の取得を希望	専門的なプロフィールや履歴書の充実に希望	プログラムや大学入学のための出願の補完を希望
はい	76%	81%	70%	53%	44%	66%	89%	87%	76%
いいえ	3%	2%	4%	7%	9%	2%	1%	1%	2%
まだ該当しないが、期待している	21%	17%	26%	40%	47%	32%	11%	12%	22%

試験準備の方法

3. トレーニングの費用負担

	グローバル		アジア太平洋		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年
受験者本人	21%	24%	21%	28%	30%	21%	14%	21%	19%	19%	23%	37%	25%	27%
勤務先組織	53%	53%	50%	48%	47%	63%	61%	59%	64%	54%	41%	39%	40%	40%
中学・高校/大学・短大・専門学校等 ※ 学費として間接的に自己負担している場合も含む	4%	4%	2%	3%	3%	2%	1%	2%	1%	1%	4%	4%	14%	11%
政府のプログラム/補助金	4%	4%	6%	4%	1%	1%	0%	2%	2%	8%	6%	3%	11%	9%
その他の第三者機関 (NPO団体等)	4%	3%	4%	3%	5%	2%	1%	1%	3%	5%	9%	7%	3%	5%
わからない	1%	2%	2%	3%	1%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	1%	1%
無料だった	11%	8%	10%	8%	6%	4%	20%	13%	8%	9%	9%	5%	4%	5%
回答しない	4%	3%	5%	4%	7%	6%	1%	1%	2%	3%	6%	4%	2%	3%

4. 試験準備のために使用したもの

	グローバル		アジア太平洋		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年	2020年	2022年
民間のトレーニング機関のコース	28%	14%	30%	21%	26%	10%	24%	16%	23%	8%	29%	17%	25%	11%
勤務先企業によるトレーニングコース	25%	25%	28%	27%	35%	43%	19%	17%	26%	30%	21%	23%	23%	16%
教育機関/キャリア開発コース	15%	16%	14%	18%	17%	18%	7%	8%	17%	18%	16%	20%	17%	19%
自主学習教材 (購入)	32%	28%	27%	28%	24%	19%	42%	30%	30%	27%	29%	29%	37%	36%
テキストまたはデジタル サブスクリプション	16%	14%	14%	34%	11%	32%	17%	33%	18%	8%	16%	39%	21%	12%
自主学習教材 (無料)	53%	54%	58%	11%	52%	7%	35%	5%	64%	37%	60%	10%	58%	41%
模擬試験	37%	46%	43%	47%	38%	49%	14%	23%	38%	42%	46%	48%	52%	60%
実技用ラボ	25%	29%	29%	30%	27%	27%	10%	10%	26%	34%	34%	37%	30%	33%

認定資格のメリット

5. 享受したメリット (性別)

	グローバル		アジア太平洋		英国・ヨーロッパ		インド		日本		中南米		中東・アフリカ		北米	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
昇進や昇格	22%	20%	22%	22%	21%	19%	22%	16%	22%	29%	26%	22%	20%	20%	20%	18%
転職	7%	7%	6%	6%	6%	7%	7%	3%	5%	4%	5%	5%	8%	6%	16%	16%
就職	3%	4%	3%	4%	2%	3%	2%	2%	1%	1%	1%	2%	6%	11%	7%	9%
特定の IT 職の取得	5%	4%	8%	4%	5%	4%	5%	3%	4%	4%	4%	2%	7%	4%	5%	5%
技能や知識、能力の習得	47%	48%	44%	43%	51%	50%	52%	60%	59%	54%	44%	48%	43%	44%	35%	35%
履歴書の充実	15%	16%	17%	21%	16%	17%	13%	16%	10%	8%	19%	20%	15%	15%	16%	18%
プログラムや大学入学のための出願	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	0%	0%	1%

6. 転職活動への関心と自信が高まりましたか？

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米	男性	女性
はい	81%	86%	74%	↑ 93%	↓ 53%	88%	91%	80%	81%	82%
いいえ	19%	14%	26%	7%	47%	12%	9%	20%	19%	18%

7. 関心の高い専門分野 (今後12ヶ月)

	グローバル	アジア 太平洋	英国・ ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
クラウドコンピューティング (IaaS, PaaS, SaaS)	38%	39%	35%	↑ 48%	↑ 44%	40%	40%	36%
サイバーセキュリティ	34%	40%	34%	↓ 21%	↓ 30%	37%	↑ 45%	↑ 55%
ネットワーク&ワイヤレス	26%	27%	29%	↓ 16%	28%	27%	37%	35%
セキュリティ	21%	25%	24%	↓ 13%	22%	28%	↑ 27%	22%
仮想化	21%	24%	20%	↓ 13%	19%	24%	31%	25%
アプリケーション (ソフトウェア) 開発	16%	18%	17%	↑ 7%	18%	22%	22%	17%
CRM & ERP	16%	15%	13%	22%	22%	18%	15%	↓ 11%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	15%	16%	17%	23%	9%	↑ 17%	17%	13%
サーバ	14%	16%	13%	↓ 17%	12%	21%	13%	12%
ストレージ	12%	15%	13%	↓ 7%	14%	17%	17%	10%
エンタープライズ・アーキテクチャ	12%	10%	11%	18%	15%	12%	12%	9%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生産性ソフトウェア (Microsoft Office, Adobe CC, Autodeskなど)	10%	12%	9%	10%	10%	10%	13%	11%
ヘルプデスク	10%	10%	9%	11%	12%	15%	9%	8%
オペレーティングシステム	10%	12%	12%	5%	6%	13%	13%	12%
ビジネススキル	9%	9%	8%	10%	8%	11%	11%	10%
DevOps	8%	7%	7%	12%	8%	11%	10%	8%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	8%	8%	7%	6%	11%	8%	10%	8%
コラボレーション、ビデオ / ウェブ カンファレンシング	7%	7%	7%	7%	7%	11%	8%	10%
データベース管理・開発	7%	8%	11%	11%	3%	8%	9%	4%
eコマース / eビジネス	7%	8%	10%	6%	3%	10%	9%	6%
IoT/クラウド コンバージェンス	6%	5%	9%	5%	10%	7%	7%	5%
プロジェクトマネジメント、アジャイルおよび/またはスクラム	4%	5%	4%	4%	5%	5%	4%	5%
ウェブ開発	4%	5%	4%	4%	2%	10%	4%	3%
リーダーシップ、マネジメント	3%	2%	3%	1%	2%	4%	7%	8%
ボイスエンジニアリング	3%	3%	4%	3%	3%	4%	5%	4%
ミドルウェア	3%	3%	4%	2%	2%	6%	5%	3%
モバイル	3%	3%	2%	2%	3%	3%	2%	4%
ゲーム開発	3%	2%	2%	1%	1%	4%	6%	2%
オープンソース	2%	3%	1%	3%	5%	2%	2%	3%
品質管理	2%	3%	1%	1%	4%	2%	3%	3%
3D モデリング/CAD	2%	2%	2%	2%	3%	2%	1%	2%
XR (VR, AR, MR)	2%	2%	1%	2%	4%	2%	1%	1%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	2%	2%	1%	1%	1%	3%	2%	2%

専門分野：2020年に受験

2020年	グローバル	アジア太平洋	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
3D モデリング/CAD	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	3.3%	3.4%	3.9%	2.0%	2.9%	2.4%	4.9%
アプリケーション (ソフトウェア) 開発	3.9%	3.0%	10.7%	4.4%	3.5%	2.3%	2.1%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	1.0%	1.0%	0.8%	1.5%	0.8%	1.1%	0.7%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生産性ソフトウェア (Microsoft Office、Adobe CC、Autodeskなど)	1.5%	1.2%	1.1%	2.1%	1.4%	1.5%	1.4%
ビジネススキル	2.1%	2.1%	1.7%	2.6%	3.1%	1.4%	1.3%
クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	28.2%	33.2%	22.6%	34.2%	33.4%	28.2%	25.7%
コラボレーション、ビデオ / ウェブ カンファレンシング	0.8%	0.7%	1.1%	0.2%	1.5%	0.7%	0.5%
CRM & ERP	2.0%	2.3%	3.1%	1.5%	3.0%	2.2%	1.1%
サイバーセキュリティ	6.5%	4.5%	2.7%	2.7%	3.4%	4.8%	12.8%
データベース管理・開発	2.8%	3.0%	2.9%	4.6%	2.6%	2.7%	2.8%
DevOps	1.8%	1.5%	2.6%	1.2%	2.8%	1.7%	1.3%
eコマース / eビジネス	0.6%	0.9%	0.6%	0.4%	1.4%	0.3%	0.3%
エンタープライズ・アーキテクチャ	2.6%	2.6%	2.0%	0.8%	4.1%	3.4%	2.3%
XR (VR、AR、MR)	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ゲーム開発	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ヘルプデスク	1.4%	0.6%	0.4%	0.7%	0.7%	3.3%	3.7%
IoT/クラウド コンバージェンス	1.3%	1.6%	1.0%	1.6%	2.1%	1.4%	0.8%
リーダーシップ、マネジメント	0.5%	0.5%	0.4%	0.2%	0.7%	0.4%	0.4%
ミドルウェア	0.2%	0.1%	0.2%	0.9%	0.3%	0.0%	0.1%
モバイル	0.4%	0.2%	0.5%	0.1%	0.3%	0.2%	0.3%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%
ネットワーク&ワイヤレス	14.6%	15.5%	16.8%	11.7%	11.1%	19.3%	11.2%
オープンソース	0.2%	0.1%	0.6%	0.4%	0.1%	0.1%	0.3%
オペレーティングシステム	2.0%	1.8%	1.0%	2.0%	1.9%	2.9%	2.2%
プロジェクトマネジメント、アジャイルおよび/またはスクラム	1.0%	0.8%	1.9%	0.9%	0.6%	0.7%	1.0%
品質管理	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	0.5%	0.1%	0.4%
セキュリティ	5.8%	5.0%	4.1%	3.5%	5.0%	5.7%	12.7%
サーバ	4.6%	5.0%	3.5%	7.4%	4.4%	5.9%	3.3%
ストレージ	1.7%	2.0%	2.7%	1.0%	1.9%	1.6%	1.0%
仮想化	6.7%	5.6%	9.2%	7.8%	4.8%	3.7%	4.5%
ボイスエンジニアリング	0.3%	0.3%	0.5%	0.1%	0.6%	0.3%	0.2%
ウェブ開発	1.3%	1.1%	1.5%	2.8%	1.0%	1.4%	0.8%

専門分野：2022年に受験

2022年	グローバル	アジア太平洋	インド	日本	中南米	中東・ アフリカ	北米
3D モデリング/CAD	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%
アナリティクス、ビッグデータおよびデータウェアハウス	3.4%	3.3%	4.5%	2.8%	3.8%	1.9%	3.6%
アプリケーション (ソフトウェア) 開発	4.1%	3.1%	7.9%	5.4%	3.5%	2.2%	1.4%
人工知能(AI)/機械学習(ML)	1.1%	1.3%	1.7%	1.0%	1.2%	1.0%	0.5%
ビジネス・アプリケーションおよびデスクトップ生産性ソフトウェア (Microsoft Office、Adobe CC、Autodeskなど)	2.1%	1.8%	1.5%	4.2%	1.3%	1.7%	0.9%
ビジネススキル	1.3%	1.7%	0.9%	1.4%	1.9%	0.9%	1.0%
クラウドコンピューティング (IaaS、PaaS、SaaS)	16.1%	15.0%	27.3%	21.5%	12.8%	12.0%	10.3%
コラボレーション、ビデオ / ウェブ カンファレンシング	1.0%	0.6%	0.5%	0.4%	2.1%	1.0%	0.8%
CRM & ERP	3.9%	3.1%	6.3%	1.4%	3.1%	3.5%	1.6%
サイバーセキュリティ	12.8%	14.5%	5.2%	11.4%	11.9%	12.6%	25.4%
データベース管理・開発	0.9%	0.9%	0.7%	1.7%	0.6%	0.4%	0.6%
DevOps	1.3%	1.2%	2.4%	0.5%	1.5%	0.8%	0.8%
eコマース / eビジネス	0.8%	1.2%	0.5%	0.1%	2.3%	0.3%	0.3%
エンタープライズ・アーキテクチャ	2.2%	1.9%	1.8%	0.5%	4.1%	2.4%	1.1%
XR (VR、AR、MR)	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%
ゲーム開発	0.2%	0.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
ヘルプデスク	1.6%	0.8%	0.1%	0.6%	1.1%	2.0%	5.7%
IoT/クラウド コンバージェンス	0.8%	0.9%	1.4%	0.7%	0.9%	0.9%	0.3%
リーダーシップ、マネジメント	0.5%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%	0.7%	0.7%
ミドルウェア	0.4%	0.1%	0.6%	1.4%	0.1%	0.3%	0.0%
モバイル	0.3%	0.4%	0.5%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%
マルチメディア・プロダクション、グラフィックデザイン	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
ネットワーク&ワイヤレス	12.8%	15.5%	9.6%	9.3%	13.0%	21.1%	11.2%
オープンソース	0.2%	0.0%	0.1%	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%
オペレーティングシステム	1.4%	1.1%	0.1%	1.6%	1.2%	2.0%	1.6%
プロジェクトマネジメント、アジャイルおよび/またはスクラム	0.7%	0.5%	0.7%	1.4%	0.3%	0.3%	1.2%
品質管理	0.2%	0.0%	0.2%	0.7%	0.1%	0.1%	0.1%
セキュリティ	9.8%	9.4%	6.2%	7.1%	8.9%	13.0%	14.9%
サーバ	2.8%	3.0%	0.6%	6.1%	2.9%	2.4%	1.8%
ストレージ	2.5%	3.1%	2.3%	2.6%	2.8%	3.3%	1.3%
仮想化	5.5%	6.8%	4.4%	6.5%	5.0%	4.8%	2.9%
ボイスエンジニアリング	0.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.8%	0.7%	0.5%
ウェブ開発	0.6%	0.4%	1.1%	0.8%	0.4%	0.5%	0.2%

これまでに取得した認定資格

最初の認定資格取得時の年齢

	グローバル	アジア太平洋	英国・ヨーロッパ	インド	日本	中南米	中東・アフリカ	北米
高等学校	5%	5%	6%	2%	4%	3%	10%	8%
高等学校後の教育機関 (短期大学、専門学校など)	4%	4%	3%	3%	3%	4%	7%	8%
高等学校後の教育機関 (4年制大学)	7%	9%	6%	8%	6%	5%	10%	8%
教育期間または訓練期間の修了後	9%	10%	9%	6%	1%	12%	16%	8%
失業した時	2%	2%	2%	1%	1%	1%	2%	5%
初めて就職してから 0 ～ 2 年後	30%	31%	31%	39%	29%	32%	29%	18%
就職してから 2 ～ 8 年後	24%	23%	23%	28%	26%	27%	17%	21%
就職してから 8 ～ 15 年後	10%	9%	10%	10%	12%	9%	6%	10%
就職してから 15 年以上後	10%	7%	10%	5%	18%	8%	4%	14%

取得した認定資格の数

IT 認定資格を目指すことを最初に決めたのはいつですか？										
これまでにいくつのIT系の認定資格を取得しましたか？	グローバル平均 2022年	高等学校	高等学校後の教育機関 (短期大学、専門学校など)	高等学校後の教育機関 (4年制大学)	教育期間または訓練期間の修了後	失業した時	初めて就職してから 0 ～ 2 年後	就職してから 2 ～ 8 年後	就職してから 8 ～ 15 年後	就職してから 15 年以上後
	8.01	9.45	8.82	8.37	8.63	8.02	8.20	7.13	7.09	8.11

取得した認定資格の数(続き)

	世代				年齢						
これまでにいくつのIT系の認定資格を取得しましたか？	Z世代	ミレニアル世代	X世代	ベビーブーム世代	18 歳未満	18 - 24 歳	25-34 歳	35-44 歳	45-54 歳	55-64 歳	65 歳以上
	4.87	7.45	9.98	11.11	6.23	4.85	5.96	8.87	9.98	11.23	8.60

一つひとつの試験を介して 世界の変化を促進

ピアソンVUEは、私たち一人ひとりの中に、学習し、成長し、常に自分自身を向上させる可能性があると思っています。そして、人が成長するとき、自分自身を豊かにするだけでなく、仕事、コミュニティ、そして周りの人々の生活に直接的かつ継続的な影響を与えることができると思っています。当社は、ほぼすべての業界における顧客とパートナーシップを締結しており、世界中でコミュニティを保護し発展させる人材の認定およびライセンス付与のための重要な試験を、グローバルに展開するテストセンターネットワークを介して提供しています。

詳細は PearsonVUE.co.jp をご覧ください。

